

# 第3学年A組 社会科学習指導案

日 時 令和4年11月16日(水)

場 所 社会科教室

授業者 山内 健

## 1 単元名 「現代の民主政治と社会 ～国の政治の仕組み～」

## 2 単元の目標

- (1) 国会を中心とする我が国の民主政治の仕組みのあらましや政党の役割を理解している。また、国民の権利を守り、社会の秩序を維持するために、法に基づく公正な裁判の保障があることについて理解する。  
(知識及び技能)
- (2) 対立と合意、効率と公正、個人の尊重と法の支配、民主主義などに着目して、民主政治の推進と、公正な世論の形成や選挙など国民の政治参加との関連について対話的な活動を通じ、多面的・多角的に考察、構想し、表現する。  
(思考力、判断力、表現力等)
- (3) 民主政治と政治参加について、現代社会に見られる課題の解決を視野に主体的に社会に関わろうとする。  
(学びに向かう力、人間性等)

## 3 単元の評価規準

知識及び技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> <li>・国会を中心とする我が国の民主政治の仕組みのあらましや政党の役割を理解している。</li> <li>・国民の権利を守り、社会の秩序を維持するために、法に基づく公正な裁判の保障があることについて理解している。</li> <li>・地方自治の基本的な考え方について理解している。その際、地方公共団体の政治の仕組み、住民の権利や義務について理解している。</li> </ul>	<p>対立と合意、効率と公正、個人の尊重と法の支配、民主主義などに着目して、民主政治の推進と、公正な世論の形成や選挙など国民の政治参加との関連について対話的な活動を通じ、多面的・多角的に考察、構想し、表現している。</p>	<p>民主政治と政治参加について、現代社会に見られる課題の解決を視野に主体的に社会に関わろうとしている。</p>

## 4 生徒と単元

### (1) 生徒について

男子13名、女子13名、合計26名の学級である。前期の終わりに行ったアンケートでは、大多数の生徒が社会の学習について好意的な反応を示している。社会科の授業にも意欲的に取り組む生徒が多い。そして、歴史分野を学習していた5月は「内容に興味がある」が最も多かったが、公民分野を学習するようになってからは「将来、社会に出たときに役立つ」「生活の中で役立つ」「考えるのが楽しい」といった理由に変化してきている。これは、自分の生活

23. 社会の勉強は好きだ(0点数)



と学習内容とが身近に感じられるようになったり、今現在の社会の課題をどうやって解決していけばよいのかを考える楽しさを味わったりしていることが要因と思われる。

## (2) 単元について

本単元は、中学校学習指導要領大項目C「私たちの政治」の中項目(2)「民主政治と政治参加」に設定されている。この中項目では、国会を中心とする我が国の政治の仕組みのあらましや政党の役割、議会制民主主義の意義、多数決の原理とその運用の在り方や、法に基づく公正な裁判の保障があることについて理解できるようにすることが目標である。さらに、住民自治を基本とした地方自治の基本的な考え方を理解できるようにするとともに、民主政治の推進と、公正な世論の形成や選挙など政治参加との関連について多面的・多角的に考察、構想し、表現できることをねらいとしている。

社会科の目標である「平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質・能力の基礎の育成」に直接的に関わる内容であり、公民としての自覚に目覚めることも期待できる単元であるといえる。

## (3) 指導について

前述のように、「公民としての資質・能力」の育成を図るため、中単元全体を通して「政治参加」を念頭に置いた学習活動を展開していきたい。問いの構造化を図り、知識偏重にならぬよう、生徒が主体的に学ぶための問いを大事にしていきたい。単元を貫く「社会をよりよいものにするために、私たちはどのように政治に関わるべきか」という問いを第一次から第三次まで学習内容に応じて追究し、単元のまとめで解決を図れるようにしていく。

本単元においても生活との関連や現代的な課題の解決に向けた取り組みを重視し、生徒の学習意欲を引き出していきたい。政治に関わる内容については、関心を高める手立てとしてはニュースに触れることがもっとも有効であると考え。そこで、生徒用端末でニュースを検索させたり、様々な政党のウェブサイトを調べさせたり、最近成立した法案を調べさせたりすることにより、最新の政治動向に触れられるようにしたい。

本時は話し合いにより、生徒が考えを深めたり広げたりしていくことにより、より良い考えをもつことをねらいとしている。研究の具体的施策の一つであるONEタイムでじっくり探究することで、自分の考えをもち、それを伝え合うことによって自分の考えを深めたり広げたりできるようにする。話し合いではディベートの手法を用い、異なる二つの立場に立つことで自分の考えに固執せず、より広い視野で事象をとらえることができるようにする。この時間に設定する課題に教師が答えを用意することはできない。だからこそ、生徒と生徒、生徒と教師が一緒になってこの課題に向かっていけるような授業を展開していきたい。

5 単元の指導計画及び評価の計画

◇学習活動の概要 ○「評定に用いる評価」 ●「学習改善につなげる評価」

次	ねらい・学習活動	評価の観点			評価規準（評価方法）
		知	思	態	
単元の導入 1時間	<p>【ねらい】単元を貫く問い「社会をよりよいものにするために、私たちはどのように政治に関わるべきか」について、対話的な活動を通して学習課題を設定するとともに、「よりよい社会」の姿について具体的なイメージをもったり、課題解決につながりそうな情報をあげたりして課題解決への見通しをもたせる。</p>				
	<p>◇単元を貫く問い「社会をよりよいものにするために、私たちはどのように政治に関わるべきか」について、「よりよい社会」とはどのような社会なのかを考えるとともに課題解決への見通しを立てる。</p> <p>問「社会をよりよいものにするために、私たちはどのように政治に関わるべきか」この問いを、どのように解決していけばよいだろうか。</p>			●	●対立と合意、効率と公正、個人の尊重と法の支配、民主主義などに着目して、単元を貫く問いに対する答えを予想し解決への見通しを立てている。（ワークシート）
第一次 5時間	<p>【第一次のねらい】選挙や政党など、様々な人の意見をまとめ、課題を解決するためにどのような仕組みが整えられているかを理解させ、民主政治の推進には公正な世論の形成が必要なことについて考察させる。</p>				
	<p>【第一次の問い】社会に見られる課題を解決するために、私たちはどのように情報を入手し、判断して、物事を決めるのがよいのだろうか。</p>				
	<p>◇対立と合意、効率と公正、個人の尊重と法の支配、民主主義などに着目し、選挙に関する資料などを読み取り、民主主義の意義や方法について考察し表現する。</p> <p>問民主主義は完璧な方法といえるでしょうか。</p> <p>◇選挙の基本原則や選挙制度について理解するとともに、なぜそのような原則や制度が必要なのかについて考察し表現する。</p> <p>問なぜ選挙は大切なのでしょうか。</p> <p>◇日本における政党政治の仕組みを理解する。</p> <p>問政党はどのような役割を果たしているのでしょうか。</p> <p>◇マスメディアの情報をもとにして各党の政治理念を批判的に読み取るなどして、メディアリテラシーの重要性について理解する。</p> <p>問マスメディアが政治に与える影響は何でしょう。</p>		●	●	●民主主義の意義や方法、問題点について考察し、分かりやすく表現している。（ノート） ●選挙の基本原則や制度を理解している。（ノート） ●政党の役割を理解している。（ノート） ●模擬選挙において様々な政党の選挙公約を批判的に読み取り、自分の意見に近い政党を選択している。（ノート）
	<p>◇シルバーデモクラシーとよばれる現象が起こる理由を考察することを通して現在の日本における選挙の課題やその改善策について考察し、表現する。</p> <p>問選挙の課題は何だろう。</p>		●	○	○選挙の課題を改善するための方策を提案している。（ノート）

【第二次のねらい】日本国憲法によって保障されている国民主権や基本的人権を守るために、政治や司法がどのような制度のもとで行われているかを理解させ、政治参加や司法への参加の意義について考察させる。

【第二次の問い】社会の課題や人権上の問題を解決するために、主権者である私たちはどのように政治や裁判に参加していくべきなのだろうか。

◇国会の地位や仕組み、役割を理解することを通して国会議員の待遇が良い理由について考察し、理解する。

問国会議員の待遇が良いのはなぜだろうか。

◇法律や予算ができるまでの手続きについて理解する。

問法律や予算はどのようにしてできあがるのだろうか。

◇国会と行政とがどのようにして均衡状態を保っているのか理解する。

問内閣総理大臣が好き勝手なことをしないように、国会にはどんな権限が与えられているのか？

◇内閣の役割とその意味を考察し、理解する。

問内閣の役割は何だろう。

◇行政における内閣の役割について理解する。

問公務員は、どんな仕事を通して「全体の奉仕者」になっているのだろうか。

◇裁判の役割について理解する。

問裁判の役割は何だろう。

◇裁判の仕組みについて理解するとともに、裁判によって守られている人権について考察し、表現する。

問裁判官、検察官、弁護士はどのような役割を果たしているのだろうか。

◇（本時）死刑制度について廃止派、存続派双方の意見を考察し、自分の考えを表現する。

問死刑制度は今後も存続すべきだろうか。それとも、廃止すべきだろうか。

◇裁判がより公正で身近なものになるための取組について理解することができる。

問裁判員制度が導入された理由は何だろう。

◇三権相互の関係について理解し、三権分立がとられている理由を考察する。

問三権分立は、国民主権を実現する上で役に立っているといえるだろうか

●

●国会の地位や役割を理解し、国会議員の待遇が良い理由を説明している。(ノート)

●

●法律や予算ができるまでの手続きを理解している。(ノート)

●

●国会が内閣に対してもつ権限を理解している。(ノート)

●

●内閣の役割を理解している。(ノート)

●

●公務員が「全体の奉仕者」と呼ばれる理由を理解している。(ノート)

●

●裁判の役割を理解している。(ノート)

●

●法律家の仕事と人権擁護との関わりについて考察し、わかりやすく表現している。(ノート)

●

●死刑制度について廃止派、存続派双方の意見を考察し、自分の考えを表現している。(ノート)

●

●裁判員制度が導入された理由を理解している。(ノート)

○

○三権相互の関係について理解し、三権分立がとられている理由を表現している。(ペーパーテスト)

第三次 4時間	【第三次のねらい】 地方自治についての理解を深めるとともに、私たちの住む地域をよりよい町に していくために、どのように地方自治に関わり、課題を解決していくべきか対話的な活動を通して 深めたことを基に考察、構想させる。			
	【第三次の問い】 よりよい大仙市や秋田県にするために、どんな政策が必要だろうか。また、どん な財政を行っていくべきだろうか。			
	◇地方自治の意義について、身近な事例をもとに考察し、理解する。 問なぜ地方自治は必要なのでしょう。 ◇地方公共団体の仕組みについて国の仕組みと比較しながら考察し、理解する。 問地方自治の仕組みと国の政治の仕組みは同じだろうか。 ◇地方公共団体にはどのような課題があるか理解し、課題解決にはどのような方法があるかを考察、構想し表現する。 問地方自治を行うためのお金は、どのようにして捻出しているのだろうか。 ◇住民の声を生かした政治を実現するために、どのような取組がなされるべきか考察し、表現する。 問大仙市をより良い町にするために、私たちはどんなことができるのだろうか。	●	●	●地方自治の必要性について考察し、表現している。(ノート) ●地方自治の仕組みについて理解している。(ノート) ●地方財政の課題について理解し、解決策を考察、構想し表現している。(ノート)
		●	●	○大仙市をより良い町にするための方策を提案している。(発表、ノート)
単元 のま とめ 1 時間	【「単元のみとめ」のねらい】 単元を貫く問いに戻り、主権者である国民の政治参加の在り方につ いて考察、構想させる。また、単元の学習を振り返らせる。			
	単元を貫く問い「社会をよりよいものにするために、私たちはどのように政治に関わるべきか」			
	◇前時までの学習をもとに、社会をよりよいものにするために主権者として政治にどのように関わるかを考察、構想する。 問【単元を貫く問い】社会をよりよいものにするために、私たちはどのように政治に関わるべきか。		○	○単元の学習を振り返り、単元を貫く問いに対する答えを表現している。(ノート)

6 本時の展開（14／21）

(1) 本時のねらい

死刑制度について廃止派、存続派双方の意見を考察し、自分の考えを表現することができる。

【思考・判断・表現】

(2) 学習過程

段階	主な学習活動と問い □生徒の姿 (見方・考え方を働かせる姿など)	形態	・教師の支援 評価規準	◇主な資料 ・ICT
見通す	1 死刑制度をめぐる資料を提示し、 本時の課題をつかむ。	全体	・本時の課題につながる資料を提示する。	◇新聞記事 ◇死刑廃止国と存続国の推移
5分	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">                     学習課題                      死刑制度は今後も存続すべきだろうか。それとも、廃止すべきだろうか。                 </div>			・電子黒板
考える	2 死刑制度を存続させるべきだという意見と、廃止すべきだという意見の双方について探究する。 (存続すべき)	個 ↓ ペア	・授業の最後で変容を感じられるように、現在の自分の考えを黒板にネームプレートで表示する。	◇参考図書 ・タブレット
交流する	□被害者の心情を考えると死刑は残すべきではないか。		・自分の意見に固執せず広い視野で考えられるように、インターネットを活用するなどして双方の意見について探究させる。	
25分	□死刑があることで凶悪犯罪を防げているのではないか。 (廃止すべき)		・調べた意見を共有させるために、ONEタイム後にペアでディベートを行う。	
	□国家が殺人を犯してもよいのだろうか。			
	□現実に、死刑があっても凶悪犯罪は起こっている。抑止力にはならないのではないか。			
話し合う	3 探究した意見を共有し、納得解を考える。	全体	・話合いが平行線に終わらないように、自分と異なる考えであっても「ここまでは認められる」というラインを探らせる。	
10分	□犯罪を防ぐためには、死刑かどうかはともかく何らかの刑罰は必要かもしれないね。			
まとめる	4 自分の意見をまとめる。 (存続すべき)	個	・感情論になってしまわないように、「犯罪行為という人権侵害を防ぐ」「犯罪が起こってしまった後も人権を守る必要がある」という視点を与える。	◇振り返りの視点
振り返る	□日本も世界の流れに従うべきかもしれないが、死刑があることは凶悪犯罪を防ぐうえでも有効であり、人権を守ることにつながる。 (廃止すべき)			
10分	□確かに何らかの刑罰は必要だが、どんな理由があれ殺人という人権侵害は許されず、それは国家といえども例外ではない。			
			人権に配慮し、「存続すべき」「廃止すべき」双方の意見に一定の意見を示しながら自分の考えを論述している。 【思判表】〔ノートの記述〕	

